

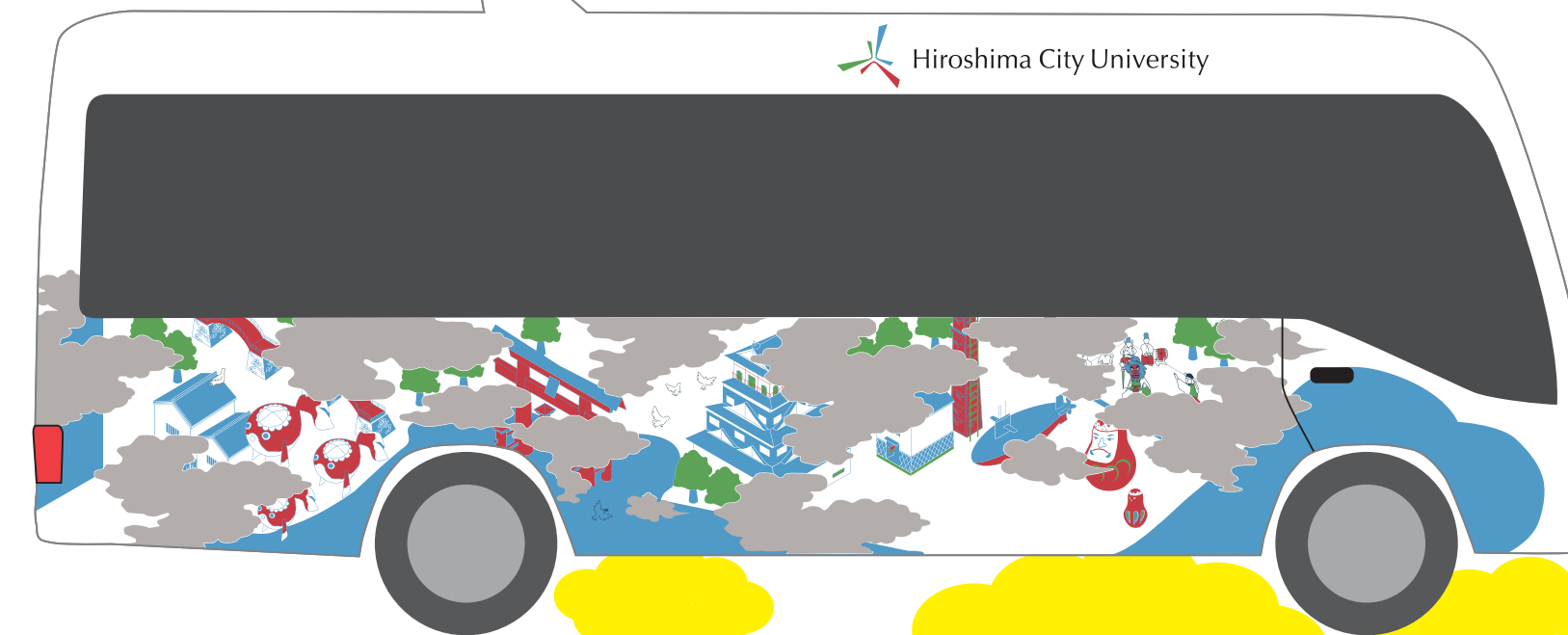
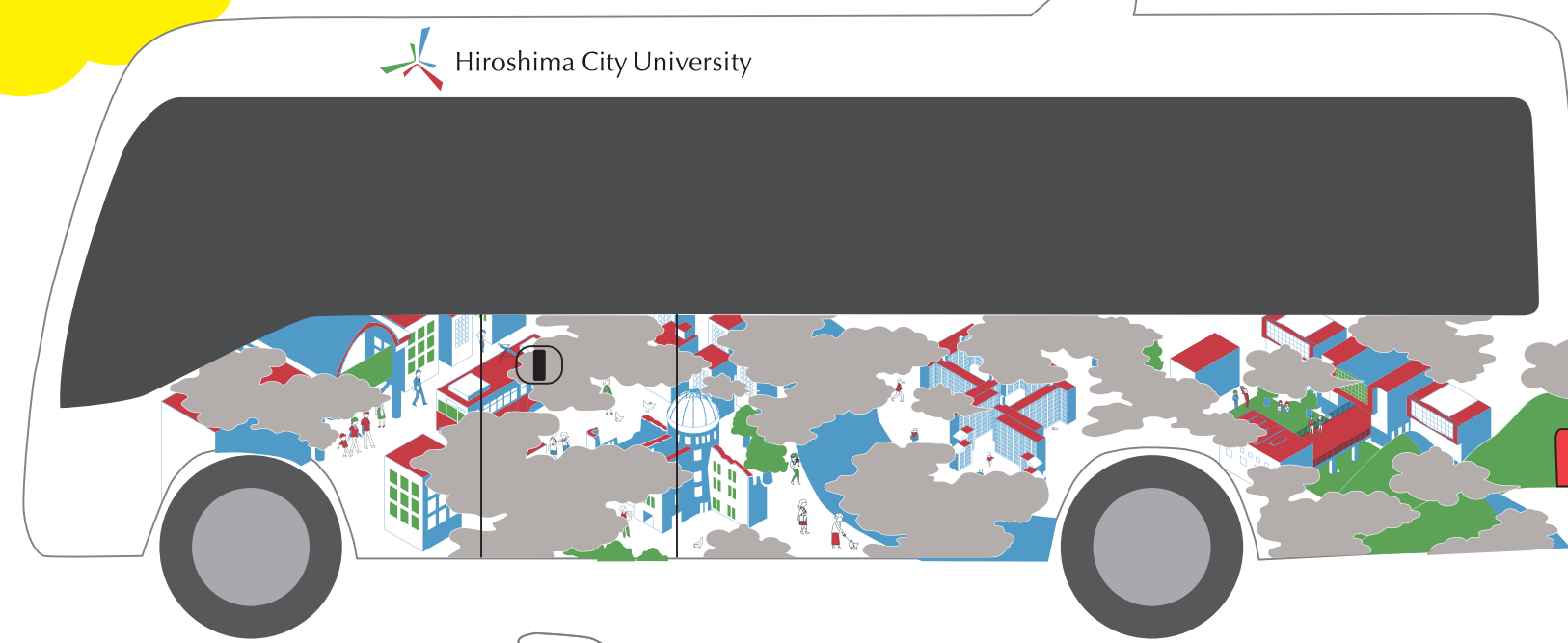
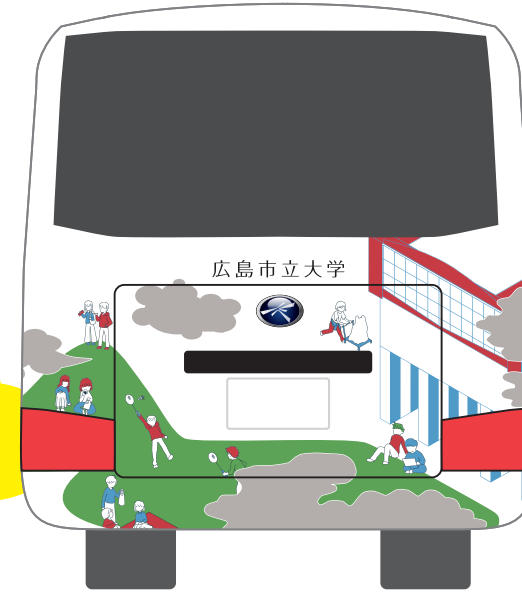
## 「いちバス」運行開始記念特集 「いちバス」ができるまで

学生・教職員の学外での教育・研究及び地域貢献などの活動の活性化や利便性向上を目的に、この度マイクロバス1台を配備しました。マイクロバスの愛称の「いちバス」は、学内募集の77案(表記違い86案)の中から広報委員会の投票により決定しました。車体のラッピング装飾およびバス後方のエンブレムは、芸術学部3年生によるものです。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により作業が思うように進まない中、完成に向けて制作に取り組みました。今回は制作の一部をご紹介します。



### デザイン

芸術学部デザイン工芸学科3年の北崎葵さん制作。  
『洛中洛外図屏風』をもじって『学中学外図』。  
本学学生たちが学内から学外まで、広く活躍する様子をイメージしたイラストは、3学部のイメージカラーで構成されています。

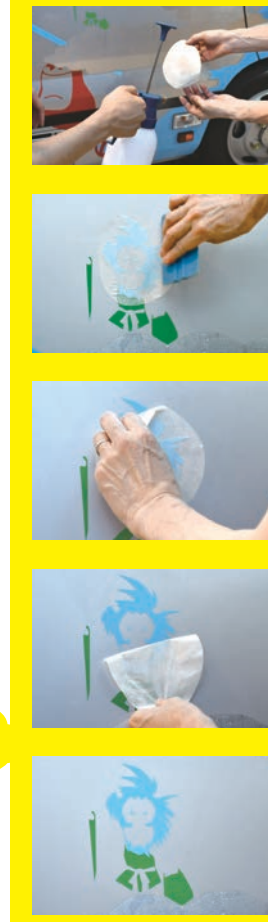


### ラッピング作業

特殊なシートを、各色およびパーツごとにカットして、車体に貼る作業です。一度接着すると剥がれなくなるため、貼る場所を何度もチェックしながら、慎重に作業を行いました。



作業工程の一部



ラッピング作業が一番大変だった基町アパート

### エンブレム

芸術学部デザイン工芸学科4年の粟根誠一郎さん制作。  
大学コミュニケーションマークがあしらわれたエンブレムは七宝焼の技法で制作されました。



フレームと七宝がぴったりはまるように何度も調整します

completed!

車体にエンブレムを取り付けます

### 7.20 お披露目会

お披露目会で車体に施しているだるまに目を入れました

講義や視察で利用されています

北崎さん



## 活躍する市大人

在学生、卒業生を問わず、国内外のさまざまな分野で活躍する「市大人」を紹介します。

### やりたいことをやりきること

国際学部国際学科2020年度卒業 **森岡 菜摘**さん

一森岡さんは現在、安芸郡坂町の古民家を多くの方と協力しながらリノベーションされていますが、経緯や、やりがいについて教えてください。

現在私がリノベーション

を行っている古民家は、もともと住まれていた方がその地域を離れ、空き家になってしまったことから話が始まりました。大家さんはそれを機に、取り壊しを検討していたそうなのですが、約100年前の職人の技がそのまま残っている古民家の取り壊しはあまりにもったいないという地域住民やご家族の思いから、さまざまなご縁を経て、私の元に話が届きました。古民家の再生を通じて、新しい出会いやご縁が日々生まれていることはこのプロジェクトの何よりの魅力であり、世代や国籍などの垣根を越えて「みんなで場を作る」ことは、私にとって最大のやりたかったことであり、日々やりがいを感じています。

リノベーションには多くの人が関わっているようですが、どのように協力をお願いしているのでしょうか。初めは、DIYや古民家再生の経験がある仲間を教えてもらいながら作業をしていたので、元からの知り合いだけを集めてぼそぼそ作業をしていました。しかし日が経つにつれて、徐々に仲間たちがそれぞれの仲間を引き連れて作業に来られるようになり、最近ではこれから古民家再生に携わってほしい人や古民家での暮らしをしている人などが、情報共有を求め顔を出しに来てくれることも多くなりました。さまざまな人があらゆるタイミングで関わってくることです。「先週、自分が作った壁はどんな感じに仕上がった？」などと、自分事のように家の完成を楽しみにしてくれている人がたくさんいます。

一最後に後輩たちへメッセージをお願いします。

大学4年間は本当にあっという間に過ぎてしまいます。将来のことを考えて今を過ごすのはもちろんですが、いつかやろうと後回しにしていることがあれば、この瞬間からそに向けて動き出してほしいと思います。さもないで見えることでも、自分が作った壁はどんな感じに仕上がった？などと、自分事のように家の完成を楽しみにしてくれている人がたくさんいます。

一森岡さんが学生時代に挑戦されたことで、印象に残っていることを教えてください。

大学4年次の時に1年間休学して世界を西に回る旅に出たことです。名前が「なつみ」で、周りから「なつ」と呼ばれていたこともあり、地球を西に回り世界中の「夏」を追いかける旅をしました。憧れのバックパッカーとしての旅で、私にとってはずっと叶えなかった夢でした。旅の途中では、貧困地域での学習ボランティアに参加したり、

国際学部国際学科2020年度卒業 **森岡 菜摘**さん

急ぎ現地地で仕事をすることになったり、さまざまなことがありますが、今となっては、旅で得た経験よりも自分のやりたかったことを最後までやり遂げたということ自体が大きな自信につながっていると思います。

一大学での学びや経験が今につながっていると感じることはありますか。

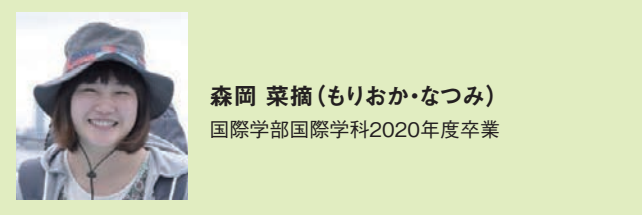
私は大学生活のほとんどを学生寮で過ごしました。そこでは、さまざまな人種の仲間と共同生活を送る中で、「人と関わることの面白さ」を学ぶことができました。共同生活を振り返れば、楽しい思い出ばかりではありませんでした。けんかができればまだいいのになあ、なんて思うほどに日々のさいなみすれ違いがストレスになったり、どうしてうまく回らない掃除当番に頭を抱えたりと、一人で暮らせたらどんなに楽だろうと思うこともありました。でもその反対に、家族以外の人と暮らすことで、暮らしの中に当たり前にある「おかえり」「おはよう」などの言葉の温かさや、互いに協力することの素晴らしさを知りました。関わらなければ楽かもしれないですが、関わらないと決して見えてこないものがあるという経験は、今の私の人との関わり方の基本になっています。

一コロナ禍での生活を過ごしている後輩たちへ、アドバイスををお願いします。

思うように進まないキャンパスライフかもしれませんが、人が成長するのはいつでも「うまくいかないとき」だと思います。あまり思い悩まず、この状況をチャンスだと思って、ぜひ前向きに頑張ってください！

一最後に後輩たちへメッセージをお願いします。

大学4年間は本当にあっという間に過ぎてしまいます。将来のことを考えて今を過ごすのはもちろんですが、いつかやろうと後回しにしていることがあれば、この瞬間からそに向けて動き出してほしいと思います。さもないで見えることでも、自分が作った壁はどんな感じに仕上がった？などと、自分事のように家の完成を楽しみにしてくれている人がたくさんいます。



森岡 菜摘(もりおか・なつみ)  
国際学部国際学科2020年度卒業

## 「いちだい」の産学連携

本学では地域や企業と連携して研究を行っています。今回は3学部の中から情報科学研究科の先生が携わる産学連携を紹介します。

### 土砂災害モニタリングネットワークの研究開発

情報科学研究科情報工学専攻モニタリングネットワーク研究室では、広島地域における課題として土砂災害に着目し、地域住民に危険箇所のリアルタイム画像を提供するシステムを市内8カ所に設置・運用しています。2020年度から約1年間、広島市とNECネットエスアイとの共同研究として、LPWA(Low Power Wide Area)無線ネットワークを新たに構築し、画像のみならず、山間部における降雨強度や深流の水位、加速度のデータを取得し、土砂災害前兆現象の検出を試みました。本研究開発においては、地域貢献特定プログラム科目「地域実践演習」の履修学生にもデータ解析に関わってもらっており、課題解決能力の教育の一助にもなっています。

### 栄養欠乏状態の計測に用いる尿中バイオマーカーの探索に関する研究

株式会社ユーリアと「栄養欠乏状態の計測に用いる尿中バイオマーカーの探索に関する研究」について、産学共同研究を開始しました。同社は広島県が主催する、コロナ禍における課題をデジタル技術で解決するひろしまサンドボックスのアクセラレーション・プログラム「D-EGGS PROJECT」に採択され、「2分でわかる栄養不足検査」という課題の実現に向けての実証事業を広島県内で行っています。私はこれまで、アミノ酸などの生体分子を短時間で簡単に分析する方法について研究を行ってきました。ユーリア社が有するスマートフォンを用いる比色検出技術を組み合わせて複数の生体分子を同時計測することで、栄養状況が迅速で安価に検査可能な装置を開発し、新しいサービスの実現を目指しています。

### VR用歩行装置

HMD(ヘッドマウントディスプレイ)でVR空間を歩こうとすると実空間の壁や物にぶつかってしましますが、世界各国で様々なメーカーや研究機関がこの問題解決に向けて挑戦しています。主なアプローチとして、進行分だけ床を動かす、足を滑らせる手法が提案されていますが、本研究では、進行方向に大腿部を支持するという新たな手法(日本特許第6795190号)に取り組んでいます。本手法は、目を瞑って歩く風景を思い浮かべながら机の前にクッションを当てて歩く動作をとると歩行感覚に近い感覚が得られたという発明者自身の実体験がヒントとなっており、荷重センサで推定した歩行動作に合わせて映像を変化させることで歩行感覚を錯覚させる仕組みとなっています。従来法のように床が動いた足り目が滑るといった危険性がないため、リハビリなどの医療福祉分野にも応用していきたいと考えています。

## ミニ 国際学生寮「さくら」から中国へ「迷你留学」!

「さくら」でミニ留学」は、国際学生寮「さくら」で英語や第二外国語を学ぶ教育プログラムとして2018年度から実施しています。この度、10月16日(土)に中国語および中国文化を学ぶプログラムとして、「国際学生寮「桜花」でミニ留学2021」を開催しました。今回のプログラムは国際交流サークルHIF(Hiroshima City University International Friendship)が主催し、国際学生寮「さくら」に居住している中国人留学生が講師となり、内容も学生がーから考えた、まさに学生による学生のための教育プログラムとなりました。実際に中国人が使うあいさつ、日本語と意味が違う漢字、中国の習慣などを、講義やクイズなどさまざまな形式で学んだり、オンラインで講師役の留学生の友人知人から、中国の料理や風景、現地の様子などを写真や映像を交えて説明してもらったり、みんなで芝麻球(ゴマ団子)を作ったりと、内容も盛りだくさんで、参加した学生は楽しく中国語や中国文化に触れることができました。

## 研究室紹介

### 学生が考える瀬戸内の島の持続可能なまちづくり

国際学部 **山口 光明**教授

世界中で健康的に長生きしている人たちを調査した研究では、「自分の悩み事を相談できる親しい友人が2、3人いて、周りの人たちとも友好的に交流する人の健康寿命は長い」という論文が近年発表されています。人の介助がなく、健康的な人生を送るには「人とのつながり」が一番だということは、言われてみれば当たり前のようにも聞こえますが、「スポーツ」や「食事」よりも上位にくるというのは正直なところ、かなりの驚きです。これからの日本は、高齢化と同時に人口の減少という課題に直面していきます。中でも瀬戸内の島々では、急速に空き家が増加し、環境面でも衛生面でも問題が顕在化してきており、このエリア全体が元気のない状況になることが心配されます。

3年次から履修できるゼミ(地域実践演習)では、大崎下島(呉市)、江田島(江田島市)、倉橋島(呉市)などで「持続可能なまちづくり」について、地元で活躍している方々からいろいろアイデアや実践方法を学び、自ら工夫しながらプロジェクトを進める楽しさを学んでいます。

2021年はコロナ禍の中でも、江田島市では空き家をドローンで空撮し、その画像データを行政が行っている移住相談に役立ててもらう活動や、島の中の人と外の人が交流できるコミュニティスペースとしてのゲストハウスと学生たちが地域での活動に使えるベースキャンプ(基地)を作る活動をしています。

このように行政や地域で活躍する人たちともつながり、学生たちも社会の役に立つプロジェクトについて考え、研究していきます。



ドローンで切り取った江田島の風景



3年ゼミ生



4年ゼミ生

## 学生レポート

この記事は、「学生広報サポーター」に登録している市大生自ら取材をして執筆しました。

### 長期インターンシップで自分と向き合う

国際学部国際学科1年 **藤井 美風**

今や一度は行って当たり前になっているインターンシップには大きく分けて二種類ある。一つは1dayインターンシップなど数日で完結する短期のインターンシップ。もう一つが、数週間から数ヶ月の間、実際の業務体験を行える長期のインターンシップだ。インターンシップと言うと、圧倒的に短期間で企業紹介をするような印象が強いのではないだろうか。

国際学部の3年生、佐々木美歩さんは広島市役所の有給長期インターンシップに参加した。職場は道路交通局都市交通部、期間は2週間ほどだ。インタビューではここには取まりきらない濃い体験談が次々と飛び出した。

長期インターンシップは何か魅力的なのか、佐々木さんは一つの仕事の完結までの過程を体験できることを挙げた。彼女が取り組んだのは10月14日の「鉄道の日」にちなみだ。鉄道利用を促進する懸垂幕の作成だ。作成中は会議にも参加し、完成した達成感ほひとしおだったという。見せてもらうと、思わず口にしたくなる語呂のいい言葉がハッシュタグの後に並ぶ。懸垂幕は10月11日(月)から一週間、市役所に掲げられた。

また、業務と並行して役所側から与えられた課題もこなさなければならず、スケジュール管理が難しかったそうだ。試行錯誤しながらも職員の方に質問してアドバイスをもらい、それを実行していくことで自身の成長を感じることができたという。

企業や業界について調べることも大切だが、佐々木さんのように実際に現場で働いてこそ得られる発見があるので、市大のキャリアセンターも長期インターンシップを勧めている。選択肢の一つとして考えてみてほしい。

※学年は受賞当時



取材時の佐々木さん(左)と筆者(右)

### おめでとうございます

■本学大学院における博士学位取得者(2021年度秋季修了)

氏名(敬称略)	学位
DOKE VICTOR KOJI AFEI TORLOM	博士(国際学)

■本学大学院で認められた論文博士学位取得者

氏名(敬称略)	学位
森谷 浩士	博士(学術)
長岡 健一	博士(情報工学)

■芸術学研究科の学生が「六甲ミーツ・アート芸術散歩2021」の公募アーティストに選出、出展  
2021年6月、芸術学研究科(博士前期課程)1年の三松拓真さんが公募アーティストに選ばれ、「六甲ミーツ・アート芸術散歩2021」で作品が展示。

■芸術学部デザイン工芸学科の学生らが「広島平和ポスター学生コンペティション2021」で受賞  
2021年7月、芸術学部デザイン工芸学科4年の宮原萌子さんらが「グランプリ」、同学部学科3年の富田佳央さんが「準グランプリ」、同学部学科4年の副島沙奈さんが「HADC賞」を受賞。

■芸術学研究科の学生が「雪楽舎フィレンツェ賞展」で入選  
2021年7月、芸術学研究科(博士前期課程)1年の上本佳奈さんが「第23回雪楽舎フィレンツェ賞展」で入選。

■情報科学研究科の学生が「The 15th International Conference on Innovative Computing, Information and Control(ICICIC2021)」で受賞  
2021年9月、情報科学研究科(博士前期課程)2年システム工学専攻の油木悠さんの論文が「Best Presentation Award」を受賞。

■芸術学研究科の学生が「ARTS CHALLENGE 2022」で入選  
2021年10月、芸術学研究科(博士前期課程)1年の篠藤碧空さんが「ARTS CHALLENGE 2022」に入選。

■芸術学研究科の学生らが「令和3年 広島県Web公募美術展」で受賞  
2021年10月、芸術学研究科(博士前期課程)1年の福本直之さんが一般部門デザイン系で入選、芸術学部デザイン工芸学科4年の川本実果さんが一般部門工芸系で特選を受賞。

※学年は受賞当時

### 市大ニュース

■2021年度特待生が決定  
特待生制度は、学生の修学意欲の向上を図るため、学力及び人物が優秀で他の学生の模範となると認められる者を表彰するとともに、副賞として特待生奨学金20万円を贈る制度です。2014年(平成26年)度から毎年選考しており、今年度は、関係規程に基づき、2年生～4年生の各学年から、国際学部は3名ずつ、情報科学部は5名ずつ、芸術学部は2名ずつ、計30名を選考しました。

※学年は決定当時

■外部資金の獲得  
本学の教員は、国の制度である科学研究費補助金や民間からの研究費などを受けて活発な学術研究活動を行っています。これらの外部資金を活用し、独創的・先駆的な研究に取り組んでいます。

●2021年度科学研究費補助金採択状況<研究科目別>

研究種目名	件数	計
基礎研究(A)一般	1	11,050千円
基礎研究(B)一般	4	14,560千円
基礎研究(C)一般	40	46,605千円
若手研究	11	10,140千円
研究成果公開促進費(学術図書)	1	1,200千円
研究活動スタート支援	1	3,120千円
国際共同研究加速基金	1	(交付申請前)
合計	59	86,675千円

●2020年度受託研究費・共同研究費・補助金・奨学金寄附金

区分	件数	金額
受託研究費・共同研究費	48	72,057千円
補助金	2	24,196千円
奨学金寄附金	12	11,302千円
合計	62	107,555千円

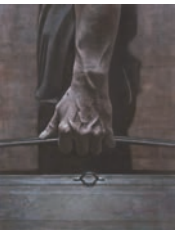
### この本 ～教員の著書紹介～

国際学部 Luke Carson 准教授  
『Metacognition and its Interactions with Cognition, Affect, Physicality and Off-task Thought: Inside the Independent Learning Experience』  
2021年3月、Routledge

情報科学研究科 齋藤夏雄 准教授  
『詰将棋の世界』  
2021年3月、日本評論社

### 表紙作品

2020年度 芸術学部美術学科 卒業  
中島 伊吹  
「工具箱を持つ手」(油絵)  
(F50号)パナール、油彩  
2020年度 卒業制作  
優秀賞



### 「WEST BREEZE」へのご意見・ご感想を募集します

広島市立大学 広報委員会  
○E-mail: kikaku@m.hiroshima-cu.ac.jp  
○Tel: 082-830-1666 ○Fax: 082-830-1656  
WEST BREEZEのバックナンバーは、大学ウェブサイト「大学紹介」>「大学広報」>「広報誌「WEST BREEZE」」に掲載しています。

広報誌名  
広島市立大学広報誌の表紙タイトル「W.B.」(「WEST BREEZE」の略称)は、広島市立大学のある西風新都にちなんで命名されました。  
編集・発行 / 広島市立大学 広報委員会  
発行日 / 2021年12月1日